



國1918年  
3.7-3.10

7-0274



大正三年八月十六日（日曜）樞密院臨時、貴族院  
各派代表者、主ナル新聞記者、實業家代表者ヲ十時  
十二時、二時、四時及六時ノ五回ニ分チ總理大臣官  
邸ニ招集各大臣列席ノ上左記ノ趣旨ニテ首相及外務  
大臣ヨリ説明アリ

本月七日夕刻在本邦英國大使ハ本國政府ノ質問ヲ奉シテ本大臣ヲ來  
訪シ英國カ已ニ獨逸國ニ對シテ戰ヲ宣スルコトトナリタルニ付テハ  
日英同盟協約ノ目的モ亦影響ヲ被ムルコトトナルニ至リタルヲ以テ  
該協約ノ規定ニ基キ日本カ英國ニ援助ヲ與ヘラルルニ於テハ英國ノ  
利益之ニ損ケルモノナカルヘシ尤モ右ハ獨逸國ニ對スル報復行爲ナ

リト雖モ是實ニ避クヘカラサル所ナルヘキ旨ノ本國政府來電ヲ示シ  
之ニ對スル帝國政府ノ回答ヲ求メタリ  
右ニ關シ本大臣ハ同夜直ニ臨時閣議ノ開催ヲ乞ヒ該議ノ中英國政府  
ノ申出ニ對シテハ同盟協約ニ順ミ之ヲ應諾スルノ外ナキノミナラス  
應諾ノ結果ハ同盟ノ目的タル東亞ノ平和ヲ永遠ニ確保シ兩國全般ノ  
利益ヲ防護スルコトトナルヘキニ付右英國政府ノ請求ニ應スルコト  
ニ決シ翌八日本大臣ハ日光田母澤御用邸ニ伺候シ親シク閣下ニ内奏  
セリ

閣下ヲ退キ本大臣歸京ノ後政府ハ同夜元老ノ召集ヲ求メ更ニ閣議ヲ  
開キ慎重審議ヲ盡セリ  
右閣議ノ結果其翌九日本大臣ハ英國大使ノ來省ヲ求メ之ニ對シ帝國

政府ハ英國政府ノ請求ニ應スルコトニ内定シタル旨ヲ告ケ更ニ同盟協約ニ基キ協同動作ニ出ルノ方法等ニ關シ英國政府ト交渉ヲ重ネタル處電信ノ遲着ト一方ニ於テハ東京ニ在テ本大臣ト英國大使ト交渉シ他方ニ於テハ倫敦ニ在テ井上大使ト英國外務大臣ト交渉スルコトヲ要スルカ爲メ交渉事項ノ前後相錯綜シタルコトアル等ノ爲メ空シク時日ノ經過スルコトヲ免レサリシカ兩國政府間ノ交渉漸ク完了ニ近キタルヲ以テ政府ハ更ニ元老ト協議ヲ重ネタル結果十五日陛下ノ還幸ヲ仰キ即日御前會議ヲ開キ熟議ノ末上級ヲ終テ此際獨逸ニ對シ開戦ノ宣言ヲ爲スニ先チ一應獨逸國ニ對シ左記ノ勸告ヲ與フルコトニ決定セリ之レ同國ニ對シテハ從來何等交渉スル處ナカリシモノナルヲ以テ萬一平和ニ時局ヲ解決シ以テ日英同盟ノ目的ヲ達スルコト

ヲ得ハ先ツ其方法ヲ盡スコトヲ至當ナリト信シタルニヨレリ

#### 左記

帝國政府ハ現下ノ狀勢ニ於テ極東ノ和平ヲ紊亂スヘキ源泉ヲ除去シ日英同盟協約ノ豫期セル全殺ノ利益ヲ防務スルノ措置ヲ講スルハ該協約ノ目的トスル東亞ノ平和ヲ水道ニ確保スルカ爲メニ極メテ緊要ノ事タルヲ思ヒ茲ニ誠意ヲ以テ獨逸帝國政府ニ勸告スルニ同政府ニ於テ左記二項ヲ實行セラレムコトヲ以テス

#### 第一

日本及支那海洋方面ヨリ獨逸國艦艇ノ即時ニ退去スルコト退去スルコト能ハサルモノハ直ニ其武裝ヲ解除スルコト

#### 第二

160856

獨逸帝國政府ハ膠州灣租借地全部ヲ支那國ニ灣附スルノ目的ヲ以テ  
一千九百十四年九月十五日ヲ限リ無償無條件ニテ日本帝國官廳ニ交  
附スルコト

日本帝國政府ニ於テ茲上ノ勸告ニ對シ一千九百十四年八月二十三日  
正午迄ニ無條件ニ應答ノ旨獨逸帝國政府ヨリノ回答ヲ受領セサルニ  
於テハ帝國政府ハ其必要ト認ムル行動ヲ執ルヘキコトヲ聲明ス

右ノ結果本月二十三日正午ニ至ルモ尙政府ニ於テ獨逸帝國政府ヨリ所  
要ノ回答ヲ受領セサレハ帝國政府ハ直ニ獨逸國ニ對シ其必要ト信ス  
ル手段ヲ執ルモノトス